

7月31日(月)

末席に着く

聖書朗読 ルカ 14：7～14

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたにひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。 ローマ 12：3

そのとき自分が特別な感じがしました。アフリカのルワンダ出身の2人が、結婚式を私の故郷であるココロラド州でしたいと言われたのです。披露宴では、私たち夫婦が新郎新婦にとっても近い上座に着き、皆から注目を浴びたり、会場内の他の人よりも先に給仕を受けたりするのは気持ちのいいものでした。

しかし、イエス様は、このような特別扱いを求めることについて警告されています。婚礼の披露宴に招かれた人々が上座を選んでいる様子に、イエス様が気づかれたことを、ルカは語っています。イエス様は、このような行ないは恥をかくことになるかもしれないと言われました。披露宴にあなたを招いた人が来て、上座にあなたが座っているのを見たら、招かれた人たちの前で、あなたが座っている席をもっと重要な人に譲ってくださいと言うかもしれません。唯一残っている席が、部屋の後ろのほうの使っていない椅子だとしたら、みんなの前で侮辱されることになります。

しかし、人生においては、社会的特権はあまりないと思う立場をあえて選択することを恐れてはなりません。イエス様は、「自分を低くする者は高くされる」とおっしゃいました。自分に対する正しい認識を神様が与えてくださることを信じましょう。

讃美歌 121

祈り 全能なる神様。自分が神様にとってどれほど貴重なものであるかを知ることができる認識を、あなたが与えてくださいますことを信じることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ロバート・P・リー
コロラド州 オーロラ

今日のカ

2017年7月31日～8月6日

翻訳 村越克子

中野雄貴

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

8月1日 (火)

最後にすること

聖書朗読 ルカ 19:12~13

その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っています。 Iコリント 1:7

イエス様のことを思うとき、私たちの関心の大半はイエス様の誕生、宣教、奇跡、教え、受難、復活そして昇天に向けられます。

再臨についてはどうでしょうか？ 聖書には再臨について書かれていますし、再臨を覚えることは私たちに希望を与えるとも書いています。聖書はこのように記しています。

再臨を待ち望むことについては、ピリピ3:20の『けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。』やIIテモテ4:8の『今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけではなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。』や、テトス2:13の『祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。』があります。

再臨を急ぐことについては、IIペテロ3:12の『そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。』。再臨を祈ることについては、ヨハネの黙示録22:20の『「しかり。わたしはすぐ来る。」アーメン。主イエスよ、早く来てください。』があります。

たくさん不思議が私たちが待っていますが、聖書に書かれていることはすべて、再臨は主イエス・キリストを信じる者にとって、素晴らしくて、喜びにあふれ、報われるものであることを示しています。あなたが信じる者の一人であるなら、再臨を恐れることはなにもありませんし、それどころか、待ち望むことがたくさんあるのです。

讃美歌 第二編 160

祈り 主イエス様、来てください。

救い主の御名において。アーメン。

パット・アンドリュー
テキサス州 アビリン

8月2日 (水)

いっしょに住んでください

聖書朗読 ルカ 24:17~29

それで、彼らが、「いっしょにお泊りください。そろそろ夕刻になりますし、日もおかた傾きましたから」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中に入られた。 ルカ 24:29

友人のジョン・ジブソンが説教の中で、このように問いかけました。「イエス様は招かれなくても、泊まったと思いますか？」と。私はそうは思いません。イエス様は、招かれることなしに、私たちの生活に入ってこられることはありません。イエス様は招かれたところにだけ行かれます。イエス様はドアの外に立たれてノックされますが、あなたの生活に招かれることなく、押し入ることはありません。

ルカの福音書第8章には、イエス様がゲラサ地方に行かれたとき、民衆が自分たちのところから離れて欲しいと願ったと書かれています。そこで、イエス様は舟に乗られ、風が帆を満たし、来られたときと同じように静かにその地を後にされました。

『だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。』(ヨハネ14:23)とイエス様は言われました。

「私たちといっしょに住んでください」と、私たちは絶えず叫ぶべきです。

讃美歌 39

祈り 親愛なる神様、あなたが私たちに近づいてくださるという信仰をもって、あなたに近づくことができますように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ウイリアム・E・マクドナー
ヤンゴン・ビルマ (カンボジア)

8月3日 (木)

あなたがたは、世界の光です

聖書朗読 ヨハネ 3：16～21

このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

マタイ 5：16

私たちの文化は、キリスト教に対してますます敵対的になってきています。キリストの福音が、世界の多くの地域で野火のように広まりつつある一方で、欧米社会の大半では炎が揺れ動いています。その理由は为什么呢？ 使徒パウロはこのように答えています。『その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。』(Ⅱコリント4：4)。一方、『光があれ。』(創世記1：3)と仰せられた神様は、『私たちの心を照らし・・・輝かせてくださったのです。』(Ⅱコリント4：6)。神様は、私たちがキリストの中に神様のご栄光を見ることを可能にしてくださいました。山上の垂訓において、私たちは、イエス様の大きなご使命を初めて垣間見ます。『あなたがたは、世界の光です。』(マタイ5：14)とイエス様は言われます。原文では、「あなたがた」という代名詞は、強調する位置に置かれ、「あなたがた、そしてあなたがただけが、世界の光です」という意味になります。

確かに、イエス様は『世の光』であられ(ヨハネ8：12)、私たちがイエス様の光を映す者でしかありません。しかし、人々がイエス様の光を私たちの中に見るなら、私たちは神様がスタンドに置かれるランプとなり、『そうすれば、家にいる人々全部を照らします。』(マタイ5：15)。その光は闇を払拭し、この世に希望をもたらします。

敵対的な世の中にあっても、神様は、愛をもって真理を語るように、そして私たちの中にイエス様の素晴らしさが見えるようにすることをお命じになられています。

讃美歌 326

祈り 私たちのお父様。あなたがすべての光の源であることたえまます。私たちの中でイエス様の光を輝かせ、闇を追い払うことができますように助けてください。

世の光であられるイエス様の御名においてお祈りします。アーメン。

リチャード・N・アディ
オレゴン州 グレシャム

8月4日 (金)

イエス様に訊いてみよう

聖書朗読 ヨハネ 4：1～9

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。 I ペテロ 5：7

ユダヤからガリラヤへとお戻りになる時、イエス様はサマリヤを通られました。これは確かに近道ではありますが、しかしユダヤ人にとって普通のルートではありませんでした。この旅の途中、イエス様はヤコブの井戸のあたりで疲れ果てて座り込んでしまいました。ちょうどその時、一人のサマリヤ人の女が通りかかったのでイエス様は水を飲ませてほしいと頼まれました。当時、ユダヤ人はサマリヤ人に声をかけることすらまれだったのに、まして女である自分に声をかけるイエス様を不思議に思い、この女はイエス様になぜなのかと問いかけました。

あなたは神様に質問することができますか？ 神様はあなたがそうすることをお望みなのです。イエス様もこの時、疑問を口にする彼女を責めるようなことはしませんでした。イエス様は彼女に話しかけ関りをつくった後に、彼女に「永遠の命に至る水」について話されたのです。

御心にかなった人であるダビデも、神様に質問しています。『わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか。』(詩編 22：1)。イエス様は『求めなさい。そうすれば与えられます。』(マタイ 7：7)とおっしゃっています。あなたは、神様に答えを求めないのですか？

讃美歌 291

祈り 天にいます私たちの父よ。私たちが恐れることなくあなたに尋ねることが出きますよう。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ガイネリー・トーマス
ニューメキシコ州 ポータレス

8月5日 (土)

パ ン

聖書朗読 ヨハネ 6 : 41 ~ 51

わたしがいのちのパンです。

ヨハネ 6 : 35

皆さんパンは好きですか。私？ 私はパンを愛しパンに愛されております。しかし不幸なことにパンというものは私に体重を与えてしまい、そして私はそれを他の誰かに売りつけることもできません。外食をするときなんて、私は机の上にあるパン、特にクロワッサンとザワートウなどを思うがまま口にしてしまいます。

イエス様はユダヤ人たちに自分が天から与えられたパンであると語りました。ユダヤ人たちは「何を言っているんだ？」とか「どうやってイエス様の肉を食えというんだらう？」などと考えました。彼らの祖先は荒野でさまよっているときにマナを食べていましたが、やがては死にました。しかしイエス様は自身であるパンを食べるものは永遠の命を得るなどというのです。

イエス様の死と復活を信じたものは、イエス様とともにあり、やがて来る復活の日を待つのです。

それでは私たちの信仰を鍛えるために、以下の個所を読んでみましょう。

『人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる』
(申命記 8 : 3)

『私たちに日ごとの糧をきょうもお与えください。』(マタイ 6 : 11)。

『また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。』
(マタイ 26 : 26)

讃美歌 187

祈り 聖なる父なる神様。今日も日ごとの糧をお与えください。またそうしてくださることに感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

カーサ・ウインター

カリフォルニア州 サン・ディエゴ

8月6日 (日)

目 的 地 へ

聖書朗読 ヨハネ 6 : 16 ~ 21

それで彼らは、イエスを喜んで舟に迎えた。舟はほどなく目的地の地に着いた。

ヨハネ 6 : 21

「まだつかないの?」。私たちは幾度となく後部座席から響く、子どもたちのこの言葉を聞きます。

長い旅路は辛いものです。行けども行けども続く同じような景色、ちょっとしたことですぐに起きる口喧嘩。山奥の田舎にある祖父の家に行くとき、車によってしまい、幾度となく「早く車から降りたい」と思った子ども時代を今でも覚えています。

イエス様が一人で行くことを選ばれたために、弟子たちは船に乗ってガリラヤ湖を横断することになりました。しかし船は嵐に巻き込まれることとなります。決して楽しい旅路ではなかったでしょう。そんな時、いきなりイエス様が水の上を歩いて彼らの目の前に現れました。さらに驚くべきことは続きます。彼らは少ししかオールを漕いでいないというのに、船はもう目的地についてしまったのです。

人生は旅です。そしてその旅にはつまらないことや苦しいことも多くあります。私たちは後部座席にいる子どものように「まだつかないの?」と思ってしまうこともあります。しかしそんな時こそ顔を上げるべきなのです。イエス様はそこにいらっしゃいます。イエス様は静かに水面に立ち、きっと喜んで船に乗ってくださいます。なんと、その時あなたの目の前には、あなたの目的地が広がっているのです。

讃美歌 第二編 234

祈り 神様。私たちをお守りください。私たちが困難の内にあるときあなたが導いてくださいますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マーデライン・ピーターソン

ネブラスカ州 ヘースティング